

# 複式第3・4学年 算数科学習指導案

1 単元名 第3学年「円と球」(学校図書3年下)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

円についての児童の理解は、「まる」とか「まるい形」などという言葉を使いながら、円を直感的に捉えている。ここでは、その直感的な理解を基にしながら、円についての用語や作図の道具を用いて正しく表したり描いたりする。また、用語を基にして形を認めることができるようにすることもねらいである。図形概念を伸ばすためには、対象となるものを抽象化していく考えが大切である。単なる説明や用語の指導にならないように留意したい。円で学習したことと関連させ、球の立体模型の操作を通して、球の用語についても理解させたい。

ここでの学習が、第5学年の円周率や第6学年の円の面積の学習につながっていく。

(2) 指導の基本的な立場

ここでの学習は、円の「中心」や「半径」という図形の構成要素に着目し、円の概念である「1点から等距離の集合」を理解できるようにする。中心や半径、直径を調べる活動や円をいろいろな方法で作図する活動により、円に対する理解を確かなものにしていきたい。コンパスの使い方については、円をかくほかに、等しい長さを測り取ったり移したりすることができる道具で、長さを比べたりする場面でも活用できることを体験させ、今後の図形の学習で進んで活用できるようにしたい。

また、円の学習で学んだことを関連させ、球についての理解をより明確にさせたい。そのため、球の具体物の操作を重視して、球の直径、半径、中心という用語や直径の測り方を理解させていきたい。

1 単元名 第4学年「式と計算」(学校図書4年下)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

児童はこれまでに、整数の四則計算を学習し、かなり複雑な計算もできるようになってきている。

ここでは、要素間の関係が複雑な場合の事実関係を、式に表すことをねらいとしている。また、四則の意味、四則の相互関係、計算について成り立つ性質などは、低学年から学習してきており、新しい内容ではない。ここでは、これらの理解を深め、整理して明確にすることがねらいである。

したがって、ここでの学習は、形式的に理解させるのではなく、しっかり関係を捉えて式に表すことができるような児童の活動を組み込みながら、構造を十分に理解させることが大切である。

本単元では、まず、2段階になっている数量の関係について、( )を用いて1つの式に表す方法と四則混合の式に表す方法について、その意味と計算順序について扱っている。次に、交換法則・結合法則について学習し、分配法則を扱い、能率的に計算できるように工夫させる。その際、計算の仕方を児童に説明させることを通して、筋道立てて考える力を伸ばしていきたい。

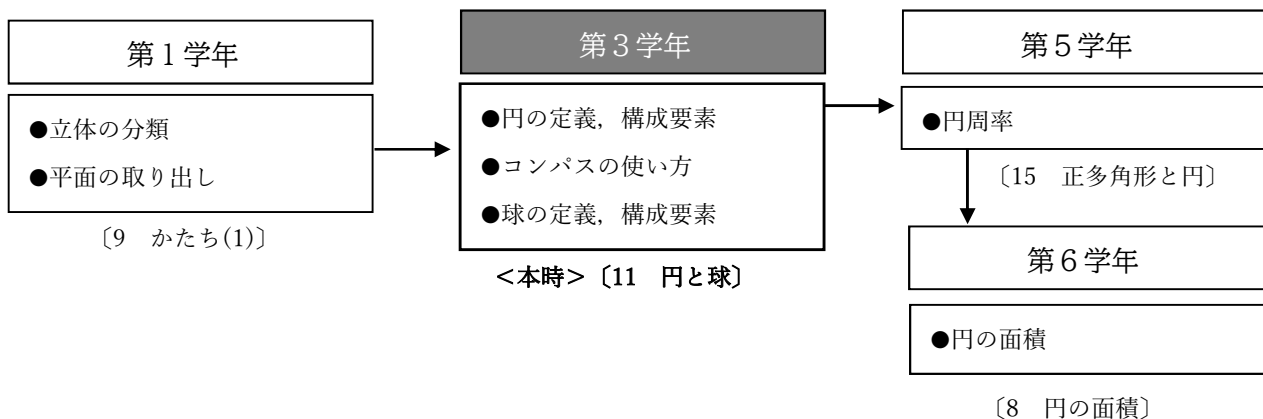
(2) 指導の基本的な立場

ここでの学習は、問題の数量関係を捉えて、総合式に表すことできるようにする。そのために、日常生活から問題場面を想起させたり、問題場面を言葉の式で表したりする活動を通して、関係を十分に捉えさせるようにする。

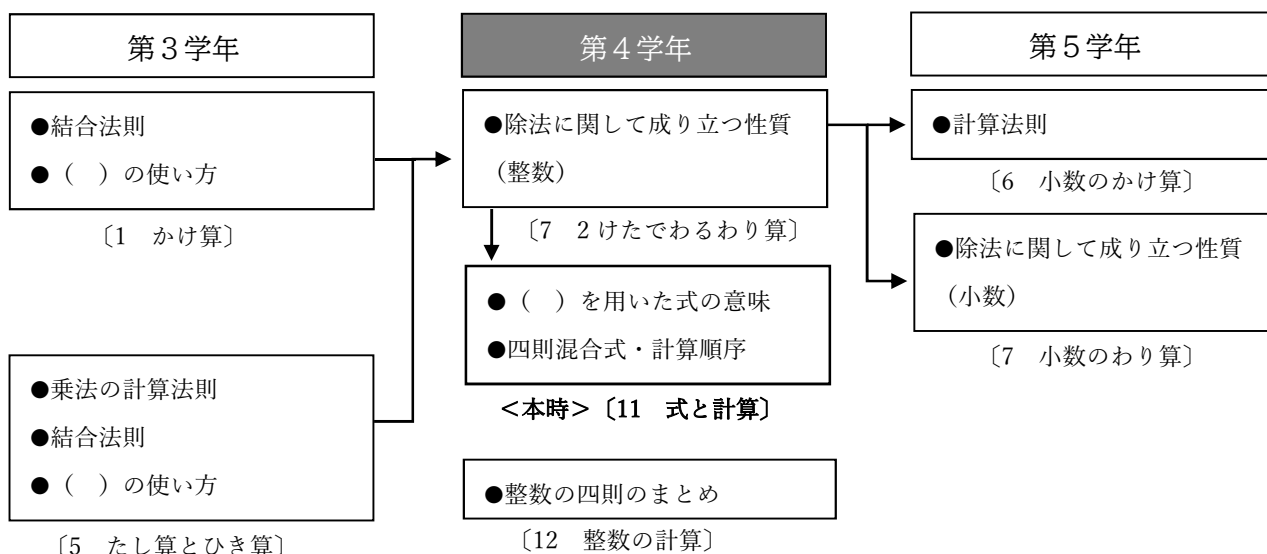
また、計算法則を用いた計算の工夫を通し、( )を用いて一つの式に表す方法と四則混合の式に表す方法について、その意味と計算順序について理解させたい。交換法則・結合法則・分配法則の学習では、計算の仕方を児童に説明させることで、筋道を立てて考えさせるようにしたい。

(3) 単元の系統

【第3学年「円と球」】



【第4学年「式と計算」】



3 児童の実態【令和4年7月 調査人数 第3学年3人 第4学年3人】

(1) 算数に関する意識調査

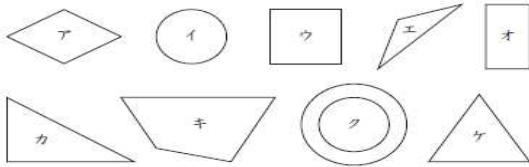
- ① 算数の学習は楽しいですか。
  - ・とても楽しい(2人) ・楽しい(1人)
- ② 算数の学習で好きなことは何ですか。(複数回答)
  - ・問題を解く(2人)
  - ・タブレットを使っての学習(2人)
- ③ ガイド学習のどんなところが好きですか。
  - ・自分で進めていける(1人)
  - ・黒板に書く(1人) ・楽しい(1人)
- ④ ガイド役の難しいところはどこですか。
  - ・進め方(1人)
  - ・次に何を言えばよいか(1人)
- ⑤ 算数の時間に「分かった」「できた」と思うときがありますか。
  - ・よくある(1人) ・ある(2人)
- ⑥ 自分の言葉で「振り返る」ことができていますか。
  - ・できている(2人)・あまりできていない(1人)

(1) 算数に関する意識調査

- ① 算数の学習は楽しいですか。
  - ・とても楽しい(2人) ・楽しい(1人)
- ② 算数の学習で好きなことは何ですか。(複数回答)
  - ・問題を解く(3人) ・発表する(2人)
  - ・タブレットを使っての学習(2人)
- ③ ガイド学習のどんなところが好きですか。
  - ・学習を進める(2人) ・時間を言う(1人)
- ④ ガイド役の難しいところはどこですか。
  - ・進め方(2人)
  - ・何分でするか考えるところ(1人)
- ⑤ 算数の時間に「分かった」「できた」と思うときがありますか。
  - ・よくある(1人) ・ある(2人)
- ⑥ 自分の言葉で「振り返る」ことができていますか。
  - ・できている(3人)

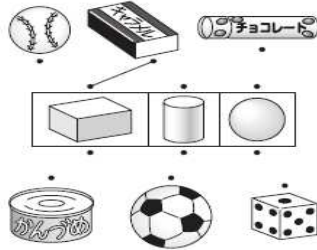
(2) 本単元に関する実態調査

1 次の形を、①～④のなかまに分けて、□に記号を書きましょう。



- ① 三角形のなかま
- ② 四角形のなかま
- ③ まるのなかま
- ④ 直角のある形

2 同じ形のなかまを、線でむすびましょう。



問 題	三角形	四角形	まる	直角のある形	立体
正答数	1	2	2	0	2

[誤答]

- ・ 「三角形」のなかまに直角三角形を入れていない。
- ・ 「直角のある形」のなかまに長方形や正方形を入れていない。

(3) 考察

3年生は、算数の計算の学習やガイドが進める学習を好んでいる。

図形の学習では、立体図形については、具体物からその特徴を捉えることができている。平面図形については、分類の仕方が曖昧のため、基本図形の名称、直角の意味など、操作活動を取り入れて、確認していく必要がある。

(4) 単元の指導上の留意点

図形では、図形の定義や性質をしっかり捉えさせることが大切である。そのためにも特徴となる部分の名称を理解させる必要がある。そこで、ICT機器を活用して視覚的に捉えさせたい。また、作図ではコンパスを初めて使うので、正しい使い方を定着させるために習熟の時間を確保していく必要がある。さらに、図形についての理解を深めることで自信をもち今後の意欲にもつながるものと考えられる。

(2) 本単元に関する実態調査

問 題	$4 \times \square = 32$	$\square \times 6 = 42$	$2 \times 9 = 9 \times \square$	$3 \times 8 = 3 \times 7 + \square$
正答数	3	3	3	3

問 題	出したお金・代金・おつりの関係 $\square + \square = \square$ , $\square - \text{代金} = \square$ , $\square - \square = \text{代金}$
正答数	3

問 題	$(3 \times 4) \times 2 = 3 \times (\square \times 2)$
正答数	2

問 題	1個50円のガムをいくつか買った たら、代金は350円になった。 代金、買った数・1この値段についての 言葉の式、何個買ったかの数式と答え
正答数	2

[誤答]

- ・  $(3 \times 4) \times 2 = 14$  と計算ミスをして、かけ算の順番が変わった所に答えられない。
- ・ 文章問題でわり算の式にするとところをひき算の式にしていた。

(3) 考察

4年生は、算数やガイドの進める学習に楽しく取り組んでいるが、ガイド学習に苦手意識がある児童がいる。これまで学習してきた乗法や除法の計算は、概ねできている。文章問題から式や答えを導き出せないことがある。図を活用するなど、言葉と数の関係を理解させるようにしていきたい。

(4) 単元の指導上の留意点

四則計算については、一通り学習し、計算力もある程度身に付けている。ここでは問題の文脈から数量関係を捉え、式に表せるようにさせる。また、式の意味についても考えさせ、数量関係や計算の手順を理解できるようにする。正しく立式したり計算できたりすることで、算数の学習への意欲を高めることにつながるものと考えられる。

#### 4 単元の目標

(1) 円について、中心、半径、直径を知る。また、円に関連して、球についても、直径などを知る。

【知識及び技能】

(2) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を見るとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 定規、コンパスなどを用いて、図形をかいたり確かめたりする活動を重視するとともに、円を基にして模様をかくなどの具体的な活動を通して、図形のもつ美しさに関心をもつ。

【学びに向かう力、人間性等】

#### 4 単元の目標

(1) 四則の混合した式や( )を用いた式について理解し、正しく計算することができる。

【知識及び技能】

(2) 具体的な場面において、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 具体的な場面において、交換法則、結合法則、分配法則を活用して、計算を能率よく行おうとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】

#### 5 指導計画

##### 【第3学年「円と球」全8時間】

小 単 元	学習内容	評価の観点			教師の具体的な働き掛け 【視】・・・視点に沿った働き掛け
		知	思	態	
1 円 ( 5 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 12人で玉入れをするとき、かごから等距離に並ぶ方法について考え、話し合う。</li> <li>● 1つの点から3cm離れた点を多くかく。</li> <li>● 「円」の定義、「中心」、「半径」の意味を知る。</li> <li>● 円の形をしたものを身の回りから探す。</li> </ul>	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習課題の内容が把握できるようにデジタル教科書で図を提示する。【視1】</li> <li>・ 円、中心、半径の用語と意味を理解させるために大きい図を準備して掲示する【視1】</li> <li>・ 小テストで用語の確認をする。分かったことを「振り返り」カードに児童の言葉で表現させる。【視2】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 円をかく道具で、円い形をかく。</li> <li>● 円にいくつかの半径を引き、どれも同じ長さであることを確かめる。</li> <li>● 校庭に半径2mの円をかく。</li> </ul>		◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習を振り返り、半径を確認し工作用紙を使った道具やひもで紙や校庭に円をかかせる。【視1】</li> <li>・ 操作活動で分かったことを「振り返り」カードに児童の言葉で表現させる。【視2】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンパスを使って円をかく。</li> <li>● 半径3cmの円をコンパスでかく。</li> <li>● かいた円をもとに、「直径」の意味を知る。【本時】</li> </ul>			◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習を基に、コンパスで円をかく学習であることを確認する。【視1】</li> <li>・ 直径が分かる図を準備する。【視1】</li> <li>・ 円がかけるか書画カメラで確認をする。分かったことを「振り返り」カードに児童の言葉で表現させる。【視2】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 円を折る活動を通して、直径の性質について調べる。</li> <li>● 円の中心の見つけ方を考える。</li> </ul>			◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の直径から、円を折る操作活動を通して、中心を理解させる。【視1】</li> <li>・ 直径や中心について分かったことを「振り返り」カードに児童の言葉で表現させる。【視2】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンパスを使って、直線を等間隔に区切ったり、直線の長さを比べたりする。</li> <li>● コンパスを使って、模様をかき、色を塗って楽しむ。</li> </ul>	○		◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習からコンパスの円をかく他の使い方について考えさせる。【視1】</li> <li>・ 操作活動で分かったことを「振り返り」カードに児童の言葉で表現させる。【視2】</li> </ul>
2 球 ( ↓ )	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 球をいろいろな方向から見た形について考える。</li> <li>● 球の定義と、「中心」「半径」「直径」を知る。</li> <li>● 球の直径の調べ方を考える。</li> <li>● 身の回りから球の形をしたものを探す。</li> </ul>		◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 球、卵、円柱を準備し、切り口がどうなるか、円の学習内容と関連させて考えさせる。【視1】</li> <li>・ 小テストで確認し、「振り返り」カードに児童の言葉で表現させる。【視2】</li> </ul>

生かそう深めよう(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 円の構成要素についてまとめる。</li> <li>● コンパスを使って、円をかいたり、直線の長さを比べたり、折れ線を直線に写し取ったりする。</li> <li>● マンホールのふたはなぜまるいか考える。</li> </ul>	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学習を生かして、円の構成要素、かき方、コンパスの利用、球の利用の問題に取り組ませる。【視1】</li> <li>・ 学習したノートを見届け、「振り返り」カードに児童の言葉で表現させる。【視2】</li> </ul>
テスト(1)	● 単元テスト	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭学習でタブレットを活用して確実に定着させた後、テストで見届けを行い、達成感を感じ取らせる。【視2】</li> </ul>

【第4学年「式と計算」全9時間】

小単元	学習内容	評価の観点			教師の具体的な働き掛け 【視】・・・視点に沿った働き掛け
		知	思	態	
1 式と計算(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 500円で2つの品物を買うときのおつりの求め方を考える。</li> <li>● ( ) を使って一つの式に表せることを知る。</li> <li>● ( ) を用いた式から問題作りをし、式の意味を考える。</li> </ul>		○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習課題からどんな式になるか考えさせるため、話し合いをさせる。【視1】</li> <li>・ ( ) を用いた式になる問題作りで理解できているか見届け、「振り返り」カードに児童の言葉で表現させる。【視2】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2種類の品物をいくつか買ったときの代金の求め方を考え、一つの式に表す。</li> <li>● 計算の順序と結び付けて、乗除部分の意味と、乗除部分を先に計算する理由を考える。</li> </ul>	◎			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習からどんな式になるか考えさせるため、話し合いをさせる。【視1】</li> <li>・ 小テストで計算順序の確認をする。【視2】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ( ) と四則混合の式の計算順序を確かめる。</li> <li>● 等号を用いて、分かりやすく表す方法を知る。【本時】</li> </ul>	◎			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までの学習からどんな計算順序になるか話し合いをさせる。【視1】</li> <li>・ 順序やきまりを整理した図を提示する。【視1】</li> <li>・ 小テストで見届け、「振り返り」カードに児童の言葉で表現させる。【視2】</li> </ul>
2 計算のきまり(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 計算場面を通して、2通りの式を立てたり、相互の関係や計算のしやすさを考えたりする。</li> <li>● 3つの数の乗法でも乗法のきまりが適用できるか考える。</li> </ul>			◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 式を見て、どんなきまりで計算をしているか話し合いをさせる。【視1】</li> <li>・ 小テストで加法・乗法の交換法則・結合法則を見届け、「振り返り」カードに児童の言葉で表現させる。【視2】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な場面を通して、2通りの式を立てたり、相互の関係や計算のしやすさを考えたりする。</li> </ul>			◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配列の違う2枚のシールを提示し、合計を出すための式について話し合いをさせる。【視1】</li> <li>・ 分配法則の計算を机間指導で見届ける。【視2】</li> </ul>
3 計算のきまりを使って	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な場面を式で表し、計算のきまりを使って説明する。</li> <li>● おはじきの個数の求め方について、線で区切ったり囲ったりし、式と考え方を結び付けて説明する。</li> <li>● 分配法則や結合法則を用いて、まとまりに着目し、被乗数を ( ) で表して計算しやすい数にする。</li> </ul>	◎			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時に学習した分配法則を使って文章問題を解く見通しをもたせる。【視1】</li> <li>・ これまでの学習を生かして、おはじきの個数を計算する方法について話し合いをさせる。【視1】</li> <li>・ 話し合いで分かったことを「振り返り」カードに書かせ、確認する。【視2】</li> </ul>
4 かけ算やわり算のきまり(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乗法において、どんなきまりが成り立つか、乗数と積の関係から調べる。</li> <li>● 除法において、どんなきまりが成り立つか、除数と商や被乗数と商の関係から調べる。</li> <li>● 他の数でも適用できるか確かめる。</li> </ul>		○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習課題からかける数と積の関係を調べることを捉えさせる。同じようにわる数と商の関係も考えさせる。【視1】</li> <li>・ 乗法、除法のきまりを他の式でも当てはめられるか確認する。【視2】</li> </ul>
学びを生かそう(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一つの式に表し、問題を解く。</li> <li>● 混合式の計算をする。</li> </ul>	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの学習を生かして、計算の順序、工夫、きまりについての問題に取り組ませる。【視1】</li> </ul>
テスト(1)	● 単元テスト	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭学習でタブレットを活用して確実に定着させた後、テストで見届けを行い、達成感を感じ取らせる。【視2】</li> </ul>

6 本時 (3/8)

(1) 目標

- ア コンパスを用いて、円を作図することができる。
- イ 円の直径の意味を理解する。

(2) 本時の指導上の留意点

ア 「つかむ・見通す」段階では、コンパスを使ってかいた円で作ったこまを見せ、自分たちでも作ってみたいという意欲をもたせる。また、前時で使った工作用紙と画鋏を想起させ、本時はコンパスを使って円をかく学習であることを捉えさせる。そして、学習の流れを記入した小黒板を活用し、学習の見通しがもてるようにしていく。【視点1】

イ 「調べる・深める」段階では、コンパスを使った正しい円のかき方を動画で確認し、自分で作図する時間を確保する。【視点2】また、かいた円に半径や直径の名称を書き込ませ、理解できるように、ノートに整理させる。

ウ 「まとめる・広げる」段階では、三角ロジックの観点で発問し、キーワードとなる言葉「半径、直径」を、児童の発表の共通点や学び合いの中で見付けさせる。【視点2】また、コンパスを使って見届け問題をさせ、確実な見届けをする。最後に観点を明確にした「振り返り」カードに、自分の言葉で表現させ、確認する。【視点2】

(3) 実際

第3学年			教師の 位置 時間(分)	第4学年		
過程	教師の働き掛け 【視】視点の手立て	主な学習活動		主な学習活動	教師の働き掛け 【視】視点の手立て	過程
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 円的美しさを捉えさせるために、コンパスを使ってかいた円で作ったこまと、コンパスを使ってかいてないこまを提示する。</li> <li>○ 円の定義を想起させるために、2つのこまを比較させる。 【視点1】</li> </ul>	1 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">半径が3cmの円を使ったこまを作ろう。</div> 2 学習課題から、本時のめあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">コンパスを使って、円をかくにはどんなことに気を付ければよいだろうか。</div>	5	1 前時の問題を復習する。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">次の計算をしよう。 A <math>12 + 15 \div (5 - 2)</math> B <math>12 + (15 \div 5 - 2)</math></div> 3 学習課題から、本時のめあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">( )が入った計算はどんな順じよて計算すればよいだろうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の学習内容を想起させるために、四則混合式の計算問題をワークシートで取り組ませる。</li> <li>○ ガイドが中心となり、前時の課題との違いから、めあてを立てる。【視点1】</li> </ul>	つかむ

6 本時 (3/9)

(1) 目標

- ア ( ) と四則の混合式の計算順序を理解し、正しく計算することができる。
- イ 等号を使って順序よく書くと計算が分かりやすいことを理解する。

(2) 本時の指導上の留意点

ア 「つかむ・見通す」段階では、前時までの学習内容を基にめあてを立て、解決できるように確認する。全体の流れが分かるように黒板に活動の流れを掲示しておく。【視点1】また、ガイドを中心に進行ができるように、事前の打ち合わせをしておく。【視点1】

イ 「調べる・深める」段階では、自分の考えや計算の順番を書くことができるように、ワークシートを準備しておく。全員の考えを比較するために、ホワイトボードに考えを書かせて、その後、ガイドを中心に計算順序について話し合いをさせる。四則と( )が混合した計算の順序を分かりやすくまとめさせる。

ウ 「まとめる・広げる」段階では、三角ロジックの観点で発問し、キーワードとなる言葉「( )を先に計算」を児童の発表の共通点や学び合いの中で見付けさせる。【視点2】また、見届け問題をさせ、確実な見届けをする。最後に「振り返り」カードに、自分の言葉で表現させ、できるだけ複数の観点で振り返るように声掛けをする。

【視点2】

見通す	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コンパスの使い方のイメージをもたせるために、手順のポイントをカードで確認させる。【視1】</li> <li>○ 活動の見通しをもたせるために、小黒板を使って流れを確認していく。【視1】</li> </ul>	<p>3 コンパスで作図するときの手順を確認する。</p> <p>4 学習の流れを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人練習（ノート）</li> <li>・全体で確認（書画カメラ）</li> </ul>	3	<p>4 解決するための見方・考え方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算、わり算が先</li> <li>・左から</li> </ul> <p>5 学習の流れを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人調べ</li> <li>・3人で話し合い</li> <li>・全体でのまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの計算の順序、乗法・除法を先に計算することに気付かせるために、これまで学習した計算のきまりを提示する。【視1】</li> <li>○ 活動の見通しをもたせるために、小黒板で流れを確認していく。【視1】</li> </ul>	見通す
調べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自でコンパスの使い方を確認できるように、ロイロノートに動画を準備しておく。</li> <li>○ コンパスで正しく円がかけているか確認するために書画カメラを活用する。【視2】</li> <li>○ コンパスの使い方を確認させるために大型コンパスで円をか</li> </ul>	<p>5 コンパスの使い方を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半径3cmの円を作図する。</li> <li>・友達とお互いのかき方を確認する。</li> <li>・全体で、コンパスを使った円のかき方を確認する。</li> </ul>	15	<p>6 自力解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに書く。</li> <li>・ホワイトボードに書く。</li> </ul> <p>7 計算の順序について3人で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（ ）がある時は、最初に計算しないとけないな。</li> <li>・（ ）の中に、+÷があるときは、÷からするんだな。</li> <li>・きまりには、優先順位があるな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 考えを比較するために、ホワイトボードにまとめさせる。</li> <li>○ 正しい順序を確認するために、ガイドを中心に話し合わせてまとめさせる。</li> </ul>	調べる
深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 直径の意味を捉えさせるために、ノートの円に半径をかきこませる。</li> </ul>	<p>6 作図をして難しかったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・針がずれてしまうな。</li> <li>・開いた幅が変わってしまう。</li> <li>・一回転させるのが難しいな。</li> </ul>	8	<p>8 計算の順序のきまりを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①（ ）</li> <li>②わり算、かけ算</li> <li>③左から順に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計算の順序を確認するために、優先順位でまとめさせる。</li> </ul>	深める
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のまとめを話し合っ確認する。</li> </ul>	<p>7 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心から針がずれないように1回転するとよい。</li> </ul>	4	<p>9 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「①（ ）」→「②×÷」→「③左から」のきまりを使うとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のまとめを話し合っ確認する。</li> </ul>	まとめる
広げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習内容を理解しているか確認するために、見届け問題をする。【視2】</li> <li>○ 本時の理解を確認させるために、「振り返り」カードを記入させる。【視2】</li> </ul>	<p>8 見届け問題をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半径4cm, 5cmの円をか</li> </ul> <p>9 「振り返り」をする。</p>	10	<p>10 見届け問題をする。</p> <p>11 「振り返り」をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の内容が定着できているか確認するために、一人ずつ机間指導を行う。【視2】</li> <li>○ 本時の理解を確認させるために「振り返り」カードを記入させる。【視2】</li> </ul>	広げる

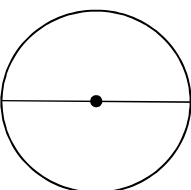
(4) 評価

- ア コンパスを用いて、円を作図することができたか。
- イ 円の直径の意味を理解することができたか。

(4) 評価

- ア（ ）と四則の混合式の計算順序を理解し、正しく計算することができたか。
- イ 等号を使って順序よく書くと計算が分かりやすいことを理解することができたか。

【板書計画 第3学年】

学習課題	めあて	学習の流れ	まとめ
半径が3cmの円を使ったコマを作ろう。	コンパスを使って、円をかくにはどんなことに気を付ければよいだろうか。		中心から針がずれないように1回転するとよい。
考え方	半径・直径を記入した円	児童の考え	問題
円のかき方のポイント	円	児童の考え	半径4cmの円
①		児童の考え	半径5cmの円
②	直径は半径の2倍	児童の考え	
③			
④			
⑤			
⑥			

【板書計画 第4学年】

学習課題	めあて	学習の流れ	まとめ
A $12 + 15 \div (5 - 2) = 17$ B $12 + (15 \div 5 - 2) = 13$ どんな計算をしているのだろうか。	( )が入った計算はどんな順じよですればよいだろうか。		「① ( )」 → 「② × ÷」 → 「③ 左から」のきまりを使うとよい。
考え方	児童の考え (Aの課題)	児童の考え (Bの課題)	計算の順じよ
計算の順序	児童の考え (Aの課題)	児童の考え (Bの課題)	問題
① ( )	児童の考え (Aの課題)	児童の考え (Bの課題)	① ( )を先に
② かけ算・わり算			② かけ算・わり算次に、たし算・わり算
③ たし算・ひき算			③ 左から順に